

一般質問通告書

受領日時 令和6年 8月26日 (午前)・午後10時11分 9番 氏名 荒川 滋

質問項目	質問の要旨
1 災害に強い町になるために	<p>(1) 増水時は河川に近づいてはならないという鉄則がある。先ごろ(株)秋田ケーブルテレビ様と IP カメラを活用し河川等監視に関する IOT 実証実験覚書の締結を行った。町長は、この実証実験で様々な活用方法を検討していきたいと発言した。河川の状況を把握するため、町民が閲覧できる仕組みづくりが必要だ。令和5年7月豪雨で特に被害が大きかった磯ノ目地区周辺の河川の様子を町ホームページで確認することが出来るカメラを設置すべき。</p> <p>(2) 平成30年と令和5年の水害を経て河川の整備や対策事業が打ち出され進められようとしている。 ・6年の間に大川地区の浸水対策で進んだことは何か。また今後の計画は。 ・前回6月定例会松浦議員への答弁で「4月11日に大川地区の水門など12施設について関係者と現地調査をおこない、県と土地改良区などで管理体制の構築に向けた協議をスピード感をもって実施する」とのことであった。4月から5カ月経過したが進展はあったのか。</p>
2 前期基本計画の折り返しを迎えた総合発展計画について	<p>(1) 総合発展計画の基本理念「^{あす}未来に誇れる^{いま}現在をともに築くまちづくり」達成に向け下記3項目について中間時点での自己評価を伺う。</p> <p>①五城目らしさの追求 地域資源の良さを再確認しつつ最大限活用しながら五城目町らしさを追求するまちづくりを推進する</p> <p>②安心と魅力を掘り起こす 幸せを感じ安心して過ごすことができるよう、地域の魅力を最大限に発揮できるよう「住みやすい」「住んで良かった」「訪れたい」と思えるまちの個性を掘り起こす</p> <p>③協働と自立を基調としたまちづくりを推進 ひと、地域活動組織、事業所などが持つ自ら育つ力を伸ばしていくことができるよう支援し、ともに共感(共汗、共歓)しながら協働と自立を基調としたまちづくり推進する</p>

(2) 6項目にわたる基本目標にはそれぞれ町が進める具体的な取り組みの他、協働による取り組みが掲げられている。その中で基本目標1-2、1-3、1-4、2-2、4-4、5-1、5-3について期待する協働の対象者である町民・地域の皆様に意向は伝わっているか。笛を吹けども踊らず状態になっていないか。

(3) 希少な事業所や商品、特産品、技術でも後継者がいないため途絶えてしまうケースが多い。後継者の不在は、事業主が1人で考える問題ではなく、地域全体の問題と捉え持続可能な地域づくりのために自治体が積極的に関わっていく必要がある。経済産業省東北経済産業局が作成した自治体職員向け事業承継支援ハンドブックにはその必要性と事例が記載されている。農家の後継者確保や移住者確保につながる可能性もある。

昨年3月、事業承継に関する質問に、事業所改修事業で事業所の継続支援をおこなっていると答弁があった。昨年6月には椎名議員も取り上げている。総合発展計画の基本目標2、地域に賑わいと活力を生む産業が持続可能なものであるために、町が事業承継に積極的に関わっていくことが必要だ。このままでは町の灯と味、特産品が次々に失われてしまう。

(4) 千代田区との児童交流で3人の児童のホームステイを受け入れ、お預かりしてから夕食までの間は、退屈させないように各家庭が工夫して過ごす。こんな時、森山の上からの眺望を楽しんでいただきたいのだが、車で登ることができない。五城目城への登山道は一昨年以來通行止め、ネコバリ岩にも連れていくことができない。小学生が楽しめる遊具を備えた公園もない。わが五城目町はこれでいいのかとあらためて思った。

夜の動物園も考えたが児童の疲労を考え、結局男鹿市にした。男鹿では他の受け入れ家族の方々と遭遇。子供たちとは楽しい時間を過ごしたが町の案内が出来ないことに複雑な思いであった。

町のホームページには「現在、森山森林公園から鐘楼のある森山頂点(第2高地)へ続く登山道(管理道路)の落石等による危険があり、利用者の安全を確保することが難しいため、管理道路を通行止めとしております。利用者の皆

様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほどよろしく願いいたします。」と記載されている。

今後どうしていくのか。「現在」と書いているということは今後改善に向かっていく気があるともとらえられるがどうなのか。毎日登山者が行き交う森山だが、それは歩いて登ることができる人に限られていて、そうでない人からは山の上に立つ機会を奪っている。第2高地までの管理道路については、これまで一般質問や普段の活動を通して何度も町に有効な活用の提言を続けてきたが事態は全く進んでいない。それどころか全面通行止めという最も楽で安易な策をとっている。改良工事には1億5千万円の巨費がかかると昨年3月に答弁いただいている。

あらためて伺うが、通行止めを解除し町のイメージアップを図るため民間と力を合わせて森山を誰もが訪れることが出来る観光の目玉に据える考えはないのか。

また、基本目標2の観光業振興全体に対する町の考えは。
(森山を除く)

(5) 安心して子育てが出来る環境づくり

三種町では子育て交流施設みっしゅ内に屋内大型遊具を備えた「こどもホール」、授乳スペースを備えた「休憩室」、飲食やお昼寝もできる和室「子育て交流室」を開放しているほか、保健師が常駐する「子育て世代包括支援センター」、保育士が常駐する「子育て支援センター」が併設されている。(みっしゅ：2022年7月開業～2024年3月の利用者数42,000人)

本町では、子育て世代包括支援センターすぎのこてらす、子育て支援センターこどもの木、離乳食教室はケアセンター2階など別々の施設に分かれている。子育て支援拠点多機能化、集約化を進め一か所で完結でき気楽にドロップインできる集約した拠点が必要と考えるが町の考えは。

(6) 高齢者が住みよいまちづくりには居場所づくり・確保が不可欠で、この夏開設したクーリングシェルターは有効な取り組みだと評価する。クーリングシェルターの実績は。

また、クーリングシェルターのひとつである朝市ふれあい館について少しでも快適に滞在できるよう、テレビの再設置はできないか。昨年12月に「テレビの運用も含め広く意見を反映させた施設利用方法を模索していく」と答弁いただいているが可能性はどうか。

(7) 基本目標4、郷土を育むには誇りと愛着を育む、いわゆる愛郷心を持っていただく必要がある。同時に地域コミュニティの維持も重要だがコロナの影響もあり希薄化が進んでいる。この度の全町体育祭参加率を見ると町内会をはじめとした地域コミュニティの希薄化と弱体化が明確になっているといえる。(自主防災組織含む)町内会活動は有事の際、共助を発揮するととても重要な組織であるがこのままでは持続が困難である。地域活動の模範となる取り組みが島根県邑南町で展開されている。行政主導で決めるのではなく、外部コンサルタントに頼むのでもなく、住民自らが時間をかけて議論し、地区ごとに必要なプランを作成し実践する「地域コミュニティ再生事業」から進化した「ちくせん」。住民主人公を目指すも温度差はあり、自分事化と考える頂く事の困難さ、特に若い世代を巻き込むのは難しいなどといった課題はつきもの。それでも試行錯誤しながら成果を出している邑南町の「ちくせん」。

運動会や祭りなど楽しみながら参加できる機会は重要で、地域コミュニティと愛郷心の醸成を図り住民との合意形成を進める仕組みづくりが必要不可欠と考えるが町の考えは。